

万葉歴史館は、「万葉集」と万葉の時代を探究するため、広く関係資料・文庫・情報等の収集、整理、調査、研究を行い、その成果を公開するとともに、展示、出版や教育普及などの諸活動を通して、次のような機能を果たしています。

■展示機能

・「万葉集」に親むとともに、様々な知識が得られます。

■教育普及機能

・地域住民を対象とした館内活動(学習会・講演会)や臨地学習会などの屋外活動を行っています。
各種出版物を編集し、発行しています。

■調査・研究・情報収集機能

・「万葉集」の専門的研究をするため、資料・文庫などを収集し、保存しています。
・「万葉集」の研究や情報収集の場を提供します。
・図書や館収蔵資料を公開し、閲覧できます。

■観光・交流機能

・万葉の自然とふれあう、やすらぎとあたたかい場を創出しています。
・周辺観光の拠点施設となっています。



- JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅より
●バス・西回り伏木循環線・東回り循環線
いずれも伏木一宮下車・徒歩7分
●JR氷見線・伏木駅下車・徒歩25分
■能越自動車道・高岡北ICより車で20分

高岡市万葉歴史館「万葉を愛する会」**会員募集**
■年会費2,000円

高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1丁目11番11号
TEL.0766-44-5511 FAX.0766-44-7335
E-mail manreki@office.city.takaoka.toyama.jp
【ホームページ】http://www.manreki.com
(平成27年7月作成)

利用のご案内

- ・開館時間／4月1日～10月31日
午前9時より午後6時まで
(入館は5時15分まで)
11月1日～3月31日
午前9時より午後5時まで
(入館は4時15分まで)
・休館日／毎週火曜日
(休日にあたる時はその翌日)
年末年始
(12月29日～1月3日)

観覧料	個人	団体(20人以上)
一般	210円	170円
小・中学生	無料	

※満65歳以上の一般個人の方は、160円
※特別企画展を行う場合は、別料金とする場合があります。

高岡市万葉歴史館

TAKAOKA MANYO HISTORICAL MUSEUM

「万葉集」の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持は、今から約1270年前、越中国守としてこの高岡の地に5年間在任しました。その間、「万葉集」全巻の収載歌約4500首のうち、家持によって越中で詠まれた歌は220余首であり、さらにゆかりのある歌を加えれば337首にもなります。この地の美しい風物を詩情豊かに詠んだこれらの歌は、「越中万葉」として、いまなお光彩を放っています。このようなことから高岡市は、大伴家持を通して「万葉集」の全国有数の故地のひとつとなっています。

万葉をはぐくんだ風土

雪と風のきびしい越中の気候
花々の咲ききそう美しい自然
あたたかい人々の心が
家持の歌をはぐくんだ。
しなやかな越
あまざる部
その風土が各地で
万葉の歌と人をそだてた。

雄神川 紅にほふ 少女らし
聲附採ると 瀬に立たすらし

もののふの 八十をとめらが 汲み乱ふ
寺井の上の 堅香子の花



万葉集
大伴家持
万葉集
大伴家持



公益財団法人高岡市民文化振興事業団

常設展示

テーマ

ふるさと万葉

■万葉集とは

万葉集は、奈良時代末(770~782年)ごろに大伴家持が最終的にまとめたと推定されている全20巻からなる現存最古の歌集です。収められている歌は、一般には「国歌大観」の数え方に従って4516首と数えられています。

雄略天皇(巻1・1)や聖徳太子(巻3・415)が詠んだと伝承されている歌などもありますが、実際には舒明天皇の歌(巻1・2)にはじまり、奈良時代の天平宝字3年(759年)の大伴家持の歌(巻20・4516)までの約130年間を中心とする、天皇・皇后から名もなき人々の歌までもがおよめられた一大歌集です。

■越中万葉とは

この万葉集の歌4516首のうち、越中で詠まれたか、あるいは越中にかかわって歌われた歌をとくに「越中万葉」と呼んでいます。家持が越中国守(現在の県知事相当の職)として赴任してきた天平18年(746年)から、家持が少納言として越中を離れる天平勝宝3年(751年)までの5年間の歌が収められた巻17・3927~巻19・4256を中心に、巻16の7首(3978~3984)を加えて337首を数えます。



■メディアボックス

越中の風物を愛し、歌にした家持。その家持が好んで歌に詠んだ花や鳥、それらを歌と対比させながら、最新の映像装置で楽しく鑑賞することができます。

■四季のシンボル造形

越中万葉を育んだ自然を、四季の移り変わりの中で象徴的にとらえ、優れた音響効果と映像効果によって表現します。



越中万葉の世界

『玉くしげ 二上山に 鳴く鳥の
声の恋しき 時は春にけり』
(巻17・3987 大伴家持)

この歌は、私たちの耳に残る美しい万葉の秀歌です。越中における家持歌は、その自然詠に大きな特色があるといえます。二上山の賦・布勢の水海に遊覧する賦・立山の賦をはじめとする風物詩。そして洗路の崎・奈呉の海・三島野・麻都太江の浜・婦負の野・雄神川・射水川・垂姫の浦・石瀬野などの地名を詠み込んだ諸作は、越中万葉に新鮮な味わいを与えます。

また、自然詠の中に数えるべきものとして、「あゆの風」「あしつき」「はよ」「つまま」「かたかご」なども、越中万葉独自の題材といっても良いでしょう。なお、このほか家持歌には郷愁の歌、無常感を詠じた歌、妻恋いの思いを歌ったものなど、注目に値する作品が数多くあります。



敷地・建物の規模

・建築年月/平成2年10月
・敷地面積/10,405.94㎡
・建物構造/鉄骨・鉄筋コンクリート造平屋建(一部地階)
・建築面積/1,837.92㎡
・建築延床面積/2,486.26㎡(地階620㎡ 1階1,837.92㎡ 2階28.34㎡)

高岡市万葉歴史館全景

四季の庭

万葉集ゆかりの草花や樹木が、それぞれの四季を趣き深く彩ります。



秋



ほよ(ヤドリギ)



春



かたかご(カタクリ)

企画展示

越中国と万葉集

大伴家持が越中国守となって北陸の地にきたことにより「越中万葉」は生まれました。

家持は、越中国の古代を「万葉集」に書き残しました。そこには、古代越中の風土や四季の姿が詳細に描かれています。その越中国は、時を経て加賀藩前田家のもと、万葉故地の顕彰・保存や研究に多大な貢献を成したのです。企画展示では、越中国と万葉集の関わりをご紹介します。

●グラフィックパネル

- 「はじめに」
- 「古代の越中」
- 「越中国守大伴家持I-II」
- 「越中の四季 春・夏・秋・冬」
- 「前田家と万葉集」
- 「越中万葉研究の歩み」
- 「近代歌人の越中万葉」
- 「古代の越中国と越中万葉の年表」

●主な展示品

- 越中国印
- 越中国府台地ジオラマ
- 越中国守大伴家持の朝服(復元品)
- 越中国開田園などの原寸大複製
- 難波津木簡(複製品)
- 東大寺開田園(複製品)
- 鳥毛立女屏風(正倉院宝物 複製品)
- ホトギス(木彫)



●「万葉集」古写本コーナー

- 桂本万葉集(複製)
- 金沢本万葉集(複製)
- 万葉集断簡など

